

医療局～市民に寄り添った医療を提供し、市民から愛され信頼される病院運営の構築～

医療局は、市立田沢湖病院、市立角館総合病院の抜本的な経営改善を進め、地域の病院として、持続可能な医療提供体制を確保し幸福度全国No.1のまちづくりに努めます。実行にあたり、市民に寄り添った医療を提供し、市民から愛され、信頼される病院を目指します。

① 部の役割・使命



※1 【36協定】労働基準法第36条に基づく労使協定

② 6つの重要視すべき価値	(1) 市民一人ひとりのために 常に患者の声に耳を傾け、受付から診察を終えるまで患者の思いに寄り添った接遇と医療提供に努めます。
	(2) 常に目標・目的を問い合わせ 経営健全化計画の目標達成のため、職員一人ひとりが一層危機感を認識して業務に当たり、改善策を着実に取り組み資金不足の解消に努めます。
	(3) 新しい手法・発想へのトライを続け 医療DXなどの新しい手法を検討、導入することで、次世代のヘルスケア・システムの構築を目指します。
	(4) 心身共に健康で 36協定※1を基盤に労務管理の一層の適正化を図り、職員の心身の健康を確保し医療サービスの向上に努めます。
	(5) 市役所内・市民・企業・団体などと柔軟に連携し 地域包括ケアの連携強化に向け、多職種による連携を積極的に推進します。基幹病院をはじめ、近隣の医療機関、介護施設等との連携を強化し集患対策を図ります。
	(6) コスト・成果にこだわる 購買適正化等を推進し、経費の削減や業務の改善に繋げます。

施策に取組む背景	施策名 (関係する課)	達成水準 (KGI)	課題を解決するための手法及び事業	指標 (KPI)	過去 (2021年度末)	現在 (2025年度末)	未来 (2029年度末)	分類		
								国の 基本構想 政策の柱	市政理念 あるべき 姿	SDGs デジタル
③ 取り組む施策と目標とする達成水準	【施策1】 役割・機能の最適化と連携の強化及び2つの市立病院の再編統合による組織改革 (田沢湖病院、角館総合病院、医療管理課、経営企画推進室)	【KGI1】 ←KPI1～4 市民意識調査における本施策の「満足」と「やや満足」の割合 2021:23.0% 2025:24.1% →2029:30.0% 【KGI2】 ←KPI1～4 患者満足度調査（入院・外来） 2021:— 2024:90.2% →2029:90.0% 【KGI3】 ←KPI1～4 資金不足比率20%以下 2021:15.3% 2025:57.9% →2029:12.4%	①役割・機能の最適化と連携の強化 今後、持続可能な地域医療提供体制を確保するためには、限られた医師・看護師等の医療資源を地域全体で最大限効率的に活用することが必要です。このため、地域の中で各公立病院が担うべき役割や機能を改めて見直し、明確化、最適化した上で、病院間の連携を強化する「機能分化・連携強化」を推進します。 令和7年度に策定の経営健全化計画を着実に実行し資金不足の解消を図り、患者からの信頼が病院経営の基盤であることを念頭に経営改善に全力を尽します。 A 秋田大学との連携（寄附講座の開設、総合診療科医の派遣、専門医派遣による指導育成、検査業務の連携等） B 大曲厚生医療センターとの連携強化（医師派遣、入院患者の転院、医療機器の共同利用） C 田沢湖病院と角館総合病院の連携強化（医療スタッフの連携） D 近隣病院、派遣元病院との連携強化（訪問活動、患者紹介等） ■病床機能、外来診療体制の構造改革 【田沢湖病院】 E 県南医療圏には自院しかない障害者施設等一般病床の優位性を積極的にPRするなど集患対策の強化 ●地域医療連携係の機能強化 F 玉川温泉との連携強化（湯治客等のオンライン診療） G 医療MaaSの活用 【角館総合病院】 H 地域包括ケア病床の入院料1（上位施設基準）取得、外来診療体制の再編 I 薬剤管理指導の推進（病棟薬剤指導） J 検診・人間ドック枠の拡充 K 玉川温泉との連携強化（湯治客等のオンライン診療） L 接遇等に係る院内巡回によるチェック（結果については、接遇向上対策委員会で検証し再発防止、改善策をフィードバックする。） M 医療MaaSの活用	【KPI1】 入院患者数 (1日平均)	【田沢湖病院】 45.8人 【角館総合病院】 125.6人	【田沢湖病院】 35.2人 【角館総合病院】 123.6人 (2024年度)	【統合病院】 145.0人			

※次頁へ続く



施策に取組む背景	施策名 (関係する課)	達成水準 (KGI)	課題を解決するための手法及び事業	指標 (KPI)	過去 (2021年度末)	現在 (2025年度末)	未来 (2029年度末)	分類		
								国の 基本構想 政策の柱	あるべき 姿	SDGs デジタル
③取り組む施策と目標とする達成水準			<p>※前頁より続く</p> <p>②2つの市立病院の再編統合による組織改革 医療需要の減少と全国的に深刻化している医療人材の不足は、病院経営に大きな負荷となっています。病院事業改革を進め、この課題を乗り越えるためには持続可能な経営体へ新生する必要があります。令和10年度の統合病院の開院に向けて資金不足額の圧縮に努めつつ、2つの市立病院の統合再編による組織改革に取組みます。 N 統合病院の開設（持続可能な経営体へ） 0 田沢湖病院の入院病床の休止</p> <p>〈再編統合スケジュール〉 ・令和8年度 再編統合に至る理由、統合後の新病院の役割や診療機能、今後の仙北市の医療ビジョンなどを説明するタウンミーティング等を開催し、市民の合意形成を図る。 ・令和9年度 診療体制の変更などについて各病院職員の理解を深めるとともに、田沢湖病院の入院患者・家族に対する意向確認を進め、関連条例の改正を行う。 ・令和10年度 新生・統合病院の開院</p>							
	【施策2】 医師・看護師等の確保と働き方改革の推進及び職員の適正配置（田沢湖病院、角館総合病院、医療管理課、経営企画推進室）	<p>【KGI1】←KPI1~4 市民意識調査における本施策の「満足」と「やや満足」の割合 2021:23.0% 2025:24.1% →2029:30.0%</p> <p>【KGI2】←KPI1~4 患者満足度調査（入院・外来） 2021:— 2024:90.2% →2029:90.0%</p> <p>【KGI3】←KPI1~3 資金不足比率20%以下 2021:15.3% 2025:57.9% →2029:12.4%</p>	<p>①医師・看護師等の確保と働き方改革の推進 2024年4月から、医師の時間外勤務の時間が大幅に削減となり、労働基準監督署から宿日直の許可の取得が求められていたところであるが、令和5年度に産婦人科及び救急外来当直の許可を取得したところです。 この様に医療資源の減少が進む中、一層医師等の働き方改革の取組みが求められている状況である。医師・看護師等の確保に加え、医師の時間外労働規制への対応等、労働環境の改善を進めながら、医療スタッフの確保を図ります。</p> <p>②職員の適正配置 人件費抑制の観点から業務量に応じた適正配置により職員数の縮減を図る。 P 医師・看護師等を目指す人材育成 （児童・生徒の医療現場体験、企業説明会への参加等・秋田県、商工課、教育委員会等との連携） （秋田大学医学部での学生を対象とした病院説明会への参加） Q 看護師等修学資金貸与制度の推進 ※制度一部改正（医師を除く。） R 秋田大学への寄附講座の設置【チャレンジ事業】 （「仙北ウエルビング地域医療・総合診療連携講座」を設置し、地域医療人材の育成及び確保の推進） S 職員やりがい度調査実施（両病院共通 2023~）</p>	<p>【KPI1】P) 医師数</p> <p>【KPI2】PQ) 看護師数</p> <p>【KPI3】S) 職員やりがい度調査</p>	<p>【田沢湖病院】 4人 【角館総合病院】 17人</p> <p>【田沢湖病院】 36人 【角館総合病院】 146人</p> <p>【田沢湖病院】 — 【角館総合病院】 —</p>	<p>【田沢湖病院】 7人 【角館総合病院】 19人</p> <p>【田沢湖病院】 37人 【角館総合病院】 138人</p> <p>【田沢湖病院】 76.5 % 【角館総合病院】 72.9 % (2024年度)</p>	<p>【統合病院】 19人</p> <p>【統合病院】 134人</p> <p>【統合病院】 80.0 %</p>	—	④	3 SOCIAL -W♥

09 チャレンジ事業について

これからのまちをもっと良くしていくために、各部局が新しい発想で取り組む【チャレンジ事業】を設定しました。人口減少や暮らしの変化など、私たちの身のまわりにはさまざまな課題がありますが、その一つ一つに前向きに挑戦し、より安心して暮らせるまちをつくっていくことが目的です。

小さな改善から未来につながる大きな挑戦まで、行政が一歩踏み出すことで、市民の皆さんの暮らし岐少しずつ良くなり、「このまちに住んでいてよかった」と感じていただけるような取組を進めていきます。



部局	チャレンジ事業
総務部	
企画部	
市民福祉部	
観光文化スポーツ部	
部局	チャレンジ事業
観光文化スポーツ部	
農林商工部	
建設部	
教育委員会	
医療局	秋田大学「仙北ウェルビーイング地域医療・総合診療連携講座」の設置（56頁参照） 連携講座とは、自治体と大学が協定を結び、人材育成や研究を共同で進めるために大学内に設置する講座です。 本市では、高齢化に伴い複数の疾患を持つ患者が増加していることから、総合診療医の需要が一層高まっています。連携講座の設置により、継続的な人材確保と育成を進め、地域医療の課題解決に繋げます。